

【山口県宇部市】コンテナを使ったまちなかの空き地活用策による子育て・創業支援の拠点づくり

- ・中心市街地の空き地活用が進まない中、まずは行政が民間空き地を多世代交流スペースとして活用する事業に着手し、その後まちづくり会社に整備・運営を任せるといった流れを作ることで、円滑な事業化を実現。
- ・施設整備に移動可能で施工が早いコンテナを採用、クラウドファンディングによりカフェを誘致といった、インパクトのある事業を見える化するすることで、まちなかの賑わいの拠点となり、周辺への波及効果が期待される。

主なハード事業

○コンテナを活用した多世代交流スペースの整備

- ・中心市街地の賑わいを創出するため、商工会議所と市の共同出資により設立(H28年)したまちづくり会社「(株)にぎわい宇部」により、民間所有の空き地に、コンテナを活用した子育て支援施設と創業支援施設を整備・運営(H28年)。
- ・まずは行政により、一定期間(3年間)土地の一部を借り上げて、土地所有者の土地活用に合わせることができるよう、移動可能で施工が早いコンテナを採用し、設置。



- ・最初の事業着手を行政が行い、その後の整備・運営をまちづくり会社が担うといった手法をとったことで、活用が進まなかった空き地を効率的・効果的に活用することが可能となった。
- ・インパクトのあるコンテナを活用し、中心市街地活性化事業を「見える化」したことで、周辺への波及効果が期待される。

≪官民協働≫

- 【民】まちづくり会社によるコンテナ施設の運営、空き店舗のマッチング・リノベーション等の創業支援
- 【官】空き地活用事業の立ち上げ、主に若者を対象とした「まちなか再生ミーティング」を通じた若者意見の集約等

主なソフト事業

○クラウドファンディングによるカフェの誘致

- ・コンテナ活用による創業支援施設にカフェを誘致。出店しやすいよう、コンテナを改装するための資金調達方法として、クラウドファンディングを活用。
- ・創業支援施設への起業相談者のほか、子育て支援施設に来る子育て世代もカフェを利用するなど、中心市街地の賑わい拠点となっている。



○若者を主体とした賑わい創出

- ・若者の意見・提案をまちづくりに反映するため、市では「まちなか再生ミーティング」を実施(H27年度～)。20代が中心のまちづくり団体「宇部未来会議」や山口大学学生やまちなか再生ミーティングメンバー等と協力し、更なる中心市街地活性化策を検討。



≪市の総合戦略における関連KPI≫

・中心市街地の休日一日あたりの通行量: 9,382人(H26)→15,500人(H31)

今後の取組

- ・子育て支援施設、創業支援施設の整備を契機に、中心市街地に更なる人呼び込むための施設整備の事業化や、多世代交流のまちづくりへの市民の参画機会の増大。